

2022年度アートマイル国際協働学習プロジェクト実施報告

Artmile International Collaborative Learning (AICL)

一般財団法人ジャパンアートマイル (JAM)

(一財) ジャパンアートマイルは、背景が異なる海外の人々と協働して新しい価値を生み出す人材の育成を目指して、2022年度アートマイル国際協働学習プロジェクト（後援：文部科学省・外務省）を実施しました。2022年度は、前年度に課題となった「論点を明確にして議論を重ね、誰でも考えそうなありきたりな結論ではなく、自分たちならではの結論を生み出す」ことを目指して協働学習のグレードアップを図りました。この視点で協働学習に取り組み、議論の成果が見られた学校に、文部科学大臣賞と外務大臣賞が授与されました。学習の質を高めることを目指した一年間の活動を報告します。

1 国内・海外の参加校

2022年度アートマイル国際協働学習プロジェクトには、18の国・地域から、74校2,970名の児童生徒が参加しました。

【参加国・地域】18国・地域

インド、インドネシア、ウガンダ、エストニア、クロアチア、サウジアラビア、スペイン、台湾、トルコ、日本、ネパール、パキスタン、ベリーズ、フランス、メキシコ、モルディブ、ルワンダ、リトアニア

【参加都道府県】17都道府県

北海道、青森県、宮城県、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、長野県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、広島県、高知県、熊本県

【参加校・参加児童生徒】

参加校数：74校（日本37校、海外37校）

参加児童生徒数：2,970名

（日本2,000名、海外970名）

【参加校一覧】

| NO | 国・地域 | 日本校 | 海外校 |
|----|------------------|-------------------|--|
| 1 | Belize ベリーズ | 千葉県 横芝光町立横芝小学校 | St. Peter's Anglican School |
| 2 | | 千葉県 横芝光町立横芝中学校 | St. Catherine Academy |
| 3 | Croatia クロアチア | 岐阜県 県立恵那高等学校 | Privatna Sportska I Jezicna Gimnazija Franjo Bucar |
| 4 | Estonia エストニア | 神奈川県 横浜市立本宿中学校 | Tamsalu Gymnasium |
| 5 | France フランス | 広島県 福山市立伊勢丘小学校 | Ecole Elementaire Balzac |
| 6 | India インド | 茨城県 牛久市立おくの義務教育学校 | Suncity School |
| 7 | | 長野県 文化学園長野中学校 | Christ Nagar Higher Secondary School |
| 8 | | 兵庫県 県立芦屋国際中等教育学校 | Suncity School |
| 9 | | 兵庫県 県立芦屋国際中等教育学校 | The Global Edge School |

| | | | |
|----|-------------------------|-----------------------------|---|
| 10 | | 東京都 渋谷区立鉢山中学校 | SMPN 1 Kalijati |
| 11 | Indonesia インドネシア | 大阪府 大谷中学校・高等学校 | SMP Labschool Cibubur |
| 12 | | 北海道 札幌新陽高等学校 | SMA Santo Paulus Pontianak |
| 13 | | Lithuania リトアニア | 兵庫県 尼崎市立武庫東中学校 |
| 14 | Maldives モルディブ | 千葉県 八千代市立大和田南小学校 | Thaajuddeen School |
| 15 | Mexico メキシコ | 兵庫県 赤穂市立原小学校 | Comunidad Educativa Yaxunah |
| 16 | | 京都府 木津川市立木津南中学校 | Colegio Ingles Americano |
| 17 | | 熊本県 県立八代高等学校 | CECyTEJ Campus Tonalá |
| 18 | | 兵庫県 関西福祉大学 | Universidad Veracruzana |
| 19 | Nepal ネパール | 大阪府 追手門学院中・高等学校 | Gorkha International Public Secondary School |
| 20 | Pakistan パキスタン | 宮城県 宮城県宮城野高等学校 | Modernage Public School & Girls College, Abbottabad |
| 21 | | 東京都 クラーク記念国際高等学校 東京キャンパス | Mansehra Public School & College |
| 22 | Rwanda ルワンダ | 神奈川県 横浜市立幸ヶ谷小学校 | Umuco Mwiza School |
| 23 | | 神奈川県 横浜市立西金沢義務教育学校 | 2&5 Christian Academy |
| 24 | Saudi Arabia サウジアラビア | 宮城県 宮城県富谷高等学校 | International Programs School |
| 25 | Spain スペイン | 東京都 東洋女子高等学校 | IES Belen |
| 26 | Taiwan 台湾 | 兵庫県 赤穂市立有年小学校 | Shaung-Xi Elementary School |
| 27 | | 愛知県 豊田市立小渡小学校 | Cheng-Kung Primary School |
| 28 | | 愛知県 東浦町立緒川小学校 | Wen Ya Elementary School |
| 29 | | 大阪府 大阪市立新森小路小学校 | Zongshan Elementary School |
| 30 | | 高知県 香南市立佐古小学校 | Ying-Qiao Elementary School |
| 31 | | 茨城県 つくば市立春日学園 義務教育学校 | Ming Der Junior High School |
| 32 | | 広島県 尾道市立瀬戸田中学校 | Chung Hua Junior High School |
| 33 | | 青森県 八戸市立白銀中学校 | Lu Jiang International School |
| 34 | | 神奈川県 横浜国立大学教育学部 附属特別支援学校 | Fu-fong Junior High School |
| 35 | | 愛知県 豊橋中央高等学校 | National Shan-Hua Senior High School |
| 36 | Turkey トルコ | 青森県 六ヶ所村立南小学校 | BUMED MEC Kosuyolu Primary School |
| 37 | Uganda ウガンダ | 神奈川県 横浜市立寺尾小学校 | Nalinya Lwantale Girls' Primary School |

2 アートマイル国際協働学習

アートマイル国際協働学習は、海外のパートナー校とICTを活用して、世界の課題をテーマに対話的・協働的に学び合い、学習の成果として壁画を共創するプロジェクトベースの学習です。

海外校との協働学習はJAMが提供するインターネット上のフォーラムを使って行います。

(1)アートマイルで育てたい力

アートマイル国際協働学習では、次の5つの力を育てることを目指しています。

①異文化を理解する力

世界と出会って異文化を理解する力
自分たちの良さに気付いて自文化を理解する力

②主体的に考え行動する力

世界に共通の課題に対して主体的に考え、
相手に働きかけて学習をリードする力

③批判的に思考する力

外からの視点で客観的にものを見て、
論理的・批判的に考える力

④多様な他者対話・協働する力

多様な考えを持つ相手と議論し、合意し、
協働して新しい価値を生み出す力

⑤想いを表現する力

世界の人に伝えたい想いを言葉で表現する力
想いを絵で表現する力

(2)学習テーマはSDGs

学習テーマは今世界が直面している課題です。自分たちの地域の課題をSDGsという世界共通の達成目標に関連付けて、世界の仲間と解決策を考えます。世界で起きている問題を自分事にして議論を重ね、自分たちの結論を生み出します。



(3)段階を追って進む国際協働学習

アートマイル国際協働学習は、次の5つの段階を追って進みます。

1. 調べ学習 自校での調べ学習(6月～7月)

- ・相手と相談して決めた共通のテーマについて自校で調べ学習

2. 共有 テーマ学習の共有(9月)

- ・自校で調べたことを相手と共有
- ・課題と解決策について意見交換

3. 融合 想いを形に(10月)

- ・多角的、批判的な視点で議論
- ・自分たちの未来について両方の想いを合わせてメッセージを作成

4. 創造 壁画制作(日本11月-12月/海外1月-2月)

- ・メッセージを込めて壁画を共同制作
(先に日本側が半分を描いて相手に送付、海外側が壁画を完成させて日本に返送)

5. 評価 振り返り(3月)

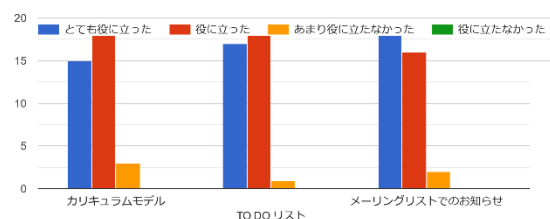
- ・相手から届いた完成壁画を鑑賞
- ・学習全体を振り返って自己評価

(4)JAMの学習支援

JAMは参加校が年間の見通しを持って相手校と協働学習を進めることができるように、学習の指針となる「カリキュラムモデル」と学習の各段階でいつ何をすればいいかが分かる「To Do リスト」を提供しています。また、教師用のメーリングリストを立ち上げて、適時役立つ情報や注意事項を知らせ、参考になる他校の学習事例を紹介しています。

プロジェクトの最後に取ったアンケートによると、それらの情報が「とても役に立った」と「役に立った」が、カリキュラムモデルは92%、To Do リストは98%、適時のお知らせは95%と、高く評価されました。

(3) 事務局が提供する下記の資料や情報は学習を進める上で役に立ちましたか？



(JAMが提供する資料・支援の評価)

3 学習の成果

学習の成果として児童・生徒にどのような意識の変化や成長が見られたのか、教師自身はどのような変化があったのかを尋ねたところ、様々な視点から変化・成長の報告がありました。

(1) 児童・生徒の意識の変化

- ・飢餓や貧困について相手と意見交換をしていく中で、これまでは何となくでしか捉えていなかった問題についてもっと詳しく調べて学習しようとする児童の姿が見られ、自ら知識を広げている場面をたくさん見ることができました。(小学生)
- ・課題の解決について相手の考えや意見に耳を傾けるうちに、同じ問題点であっても考え方が違うことに気づきました。自分たちが調べた内容と異なった点に疑問を感じ、その理由を解き明かしたいとさらに調べていました。(小学生)
- ・「平和と公正」について考える中で、児童達は「平和」への意識は高く、「公正」への意識は低かったのですが、相手は「公正」に対する意識が高いことが分かり、人権や差別の問題に興味をもつようになりました。(小学生)
- ・問題の解決に向けて、抽象的、一般的な議論ではなく、自分事として具体的に考えられるようになりました。また、SDGsの視点で、現在だけでなく未来に向けての議論ができるようになりました。(中学生)
- ・テーマ学習を相手校と同じ流れで行って意見交換を繰り返すことで、相手の自分達とは違った様々な考えや視点に触れ、自国の現状や自分の考え方について多面的にとらえられるようになりました。国を超えて同年代の生徒と協働学習を行う経験は、自身の価値観や行動を変えることにつながっていくものになりました。(高校生)
- ・自分達の学習活動や相手との交流活動が続ける中で主体性が育ち、生徒の個性が出やすくなり表情が出てきたように思います。積極的に役割を引き受けたり、グループ活動でリードしたりする生徒が出てきました。(高校生)

(2) 教師の意識の変化

- ・初めは、SDGsについて取り組むのは、課題を見つけることもその解決法を探ることもとても難しいと

いう先入観が私にありました。しかし、子どもたちにはそのような先入観はなく、問題に率直に向き合っていました。教師が最低限の知識さえ提供すれば、子どもたちは自ら考え、解決策を見出していくものだと思われていました。(小学校)

- ・相手校とオンラインで交流した際に、相手の児童が積極的に意見を言ったり質問をしたりする様子から学習への熱意を感じました。自分が担当する児童にもそのような力を育めるように、日々の取り組みを見直したいと思いました。(小学校)
- ・相手校の生徒たちの意見を鵜呑みにしている児童が多く見られ、本当にそうなのか？と考える児童が少なかったように感じました。多くの時間を取ることができればもう少し批判的思考を身に付けることができたかもしれません。(小学校)
- ・本校と相手校の教育施設の環境差が大きく、相手が作った動画や情報発信のレベルが高いなど驚かされることが多くありました。英語力にも差があり、オンライン会議では生徒同士のスムーズな意思疎通は難しかったです。様々な点で相手校とのレベルの差を知り、自分たちの取組や指導方法を見直すきっかけとなりました。(中学校)



- ・生徒たちが高校を卒業し、社会に出て、自分の能力を最大限に発揮して仕事をする時に、未来が平等であるようにするにはどうすればいいのだろうかという点について、もっと相手校と深く議論できるようにすればよかったと思います。(高校)

4 文部科学大臣賞・外務大臣賞授与

2021年度に続き、優秀な実践を行った学校に文部科学大臣賞と外務大臣賞を授与しました。

選校に当たっては、2022年10月に東北学院大学学長特別補稲垣忠教授を審査委員長として選考委員会を発足し、相手校との協働学習に主体的に取り組む、持続的に議論して学びを深めた学校に大臣賞が授与されました。

■文部科学大臣賞

台湾の Shaung-Xi Elementary School と協働学習を行った兵庫県赤穂市立有年小学校に文部科学大臣賞が授与されました。



<審査員評価>

互いの文化交流を熱心に行なっており、子どもどうしの関係づくりに成功している。テーマとしてはSDG14「海の豊かさを守ろう」とSDG15「陸の豊かさを守ろう」の2つのテーマを追究。日本側・台湾側それぞれに子どもたちが調べたプレゼンテーション動画の交流を行い、双方の問題提起が新たな気づきをもたらしたり、論点を明確にした議論が行われるなど、充実した協働学習が展開された。教師間で密にコミュニケーションを重ね、常にとのように学習を進めていくか相談しながら学習を進めた成果が子どもたちの主体的な取り組みに表れていた点を評価した。

<生徒の感想>

わたしたちは台湾の学校とSDGsの海の豊かさと陸の豊かさについて学習しました。森林は減っているのは知っていたけれど、こんなに急激に減っていることは知らなかったし、砂漠化の意味も知りませんでした。魚が減少しているのはプラゴミのせいだと思っていたけれど、他に原因があることを知りました。テーマは同じでも日本と台湾では課題も取り組み方も違いますが、海と陸を豊かにする理想は同じなので、それぞれの課題に合った取り組みを一人ひとりがすることが大切だと思います。SDGsは世界の問題だけど自分たちの生活に大きく関わることです。身近な人たちはそれを知らないのだから、これから伝えていきたいと思っています。みんなに広げるときには、情報をまちがえないように気をつけたいです。批判的に物事を見て考えることをアートマイルで学んだからです。

■外務大臣賞

クロアチアの Privatna Sportska I Jezicna Gimnazija Franjo Bucar と協働学習を行った岐阜県立恵那高等学校に外務大臣賞が授与されました。



<審査員評価>

非常に活発に交流しており、ワールドカップの対戦国として互いの健闘を讃えあうなど、日常的なコミュニケーションがしっかりとれていた。探究学習として、思考ツールやワークシートなどを使った情報整理といった学び方を両校で共有することにより、噛み合った議論ができていた。テーマに関しては、SDG5「ジェンダー平等の実現」とSDG13「気候変動の具体的対策」の2つを追究しており、それぞれについてインターネット、書籍、新聞など様々な手段で情報を集め、自分たちの考えを整理し、一方向の発信に終わらず、生徒どうしの意見交換を通して、相互理解を深めていった点を評価した。

<生徒の感想>

A. ジェンダー問題について考えたとき、育ってきた環境によって悪気はなくても無意識の思い込みが根付いていて、知らず知らずのうちに差別的と捉えられる言動をしている可能性があることに気付きました。また、自分たちが当たり前だと感じていることでも、他の国の人の視点から見ると違った見方があることも分かりました。今後はこれを自覚して自分の言動を改めていきたいと思っています。また、様々な視点から物事を考えたいと思います。

B. ジェンダー平等も気候変動も、僕たちがこの状況を引き起こしたのだから、自分自身が周りの人々、世界の人々と一緒に解決していかなければなりません。そのときに、相手をリスペクトしてコミュニケーションを取ることが何よりも大切です。僕はこのことを決して忘れずに、あらゆる課題にこれから向かいたいです。

5 課題と今後の展望

(1) 課題

2022年度は、前年度に十分できなかった「論点を明確にした議論」を協働学習の目標としました。テーマについて調べて、相手と共有して、感想を言い合って学習が終わるのではなく、お互いの気付きをスタートとして、論点を明確にして議論し、一緒に自分達の答えを生み出す協働学習を目指しました。

その結果、到達点を念頭に問いを立て、議論を繰り返して思考を深める協働学習を実現した取組が生まれた一方で、新たな問いを立てることができず、議論が深まらず、ありきたりな結論で終わったところも相当数ありました。

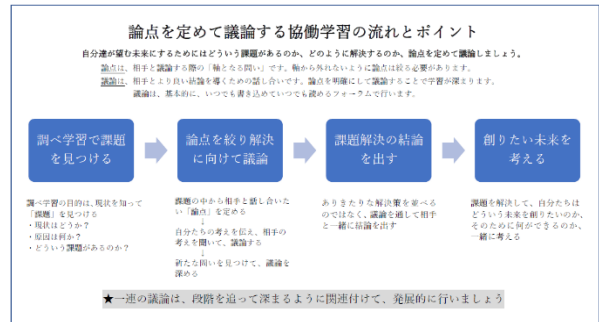
ペア校の片方が学習を深める質問を投げかけても他方がそれに応えてくれないという、相手がいるが故の問題が毎年起きます。それは現実の社会では十分起こり得ることであり、それをどう乗り越えるか、どのように意味付けをして学びに繋げるかも大事なことです。それを学びにして教師も児童生徒も成長したところがあれば、それができずに消化不良で終わったところもありました。

結論として、児童生徒の前にまず教師が批判的思考をすること、論点を明確にして議論すること、想定外を越える力を持つことが大切です。そのためには教師が常日頃から決まったことを教えるだけの授業ではなく、批判的思考で物事を考え、当たり前を疑って問いを立てることを意識することです。

(2) 今後の展望

一般的に日本人は「議論」することが不得意だと言われています。それは子供の時から、家庭でも学校でも友達とも議論することをしていないからでしょう。議論するのも練習が必要です。アートマイルは、背景が異なる海外の相手との協働学習です。議論する力を鍛えるには最適のプロジェクトです。

議論するとはどういうことかを先生方にも児童生徒の皆さんにも具体的に示すために、「論点を定めて議論する協働学習の流れとポイント」としてまとめました。



(論点を定めて議論する協働学習の流れとポイント)

「議論」とは、相手とより良い結論を導くための話し合いです。論点を明確にして話し合うことで議論が深まります。論点は質問の形で相手に投げかけます。その論点について自分達の考えをまとめて相手に伝え、相手の考えを聞いて話し合います。その話し合いの中から生まれた問いを次の論点としてさらに話し合うことで議論が深まります。論点を定めるときには、到達点を念頭に置いて問いを考えることが肝要です。

2023年度は、児童生徒が海外の相手と論点を明確にして活発に議論する協働学習を目指します。AIがめざましく進化する時代に、自分達とは違う考えを持つ人たちと議論して新しいものをどんどん生み出すことができる社会の担い手、生きがいがある社会を自分達で創っていく意気込みを持つ次世代が1人でも多く育つことを念じています。